



鶴ヶ城天守閣（会津若松市）

鶴ヶ城は今から約630年前に、その前身である東黒川館を蘆名直盛が築いたのが始まりと言われ、戊辰戦争では約1ヶ月に及び激しい攻防戦に耐えた名城として、その名を天下に知らしめました。

明治7年に取り壊されましたが、昭和40年に再建、平成13年には天守閣に続く建物「干飯櫓・南走長屋」が江戸時代の工法・技術を用いて復元されました。天守閣の内部は郷土博物館となっており会津の歴史に触れることができます。

平成23年に赤瓦への葺き替えが完了したことで幕末当時の姿を再現し、現存する天守閣では国内唯一の赤瓦の天守閣となっています。



株式会社アサカ理研

JASDAQ 証券コード：5724

株主の皆様へ

第45期第2四半期株主通信

平成23年10月1日から平成24年3月31日まで

個人投資家の皆様へ

詳しくはホームページを
ご覧ください。

<http://www.asaka.co.jp>



■ トップインタビュー

Q1. 平成24年9月期第2四半期の業績についてお聞かせください。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州の財政問題に端を発した世界景気の減速や、円高の長期化の影響から、景気回復の動きに一服感が見られました。

当社グループの経営成績に大きく影響を及ぼす、電子部品・デバイス工業分野においては、スマートフォンやタブレット端末の普及という追い風はあるものの、円高や世界的な景気減速の影響によって、全体として生産数量が減少しました。一方、主力製品である金の価格は、調整の動きが見られたものの、円高の動きがやわらいだこともあり、依然として高値で推移しました。また、銅の価格については、前年度後半からやや軟調な動きとなっておりますが、当期間においては、底堅く推移しました。

このような環境のもと、当社グループでは、年度目標である、新しい市場の開拓、新たな事業基盤となり得る新規事業の構築、生産の効率化や新規事業創出のための技術開発、社内諸制度の変革を通じた経営管理体制の強化に取り組み、企業価値の向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間において、電子部品・デバイス工業分野の生産減少の影響を受けながらも、貴金属価格が高値を維持したことによって、売上高は、7,322百万円（前年同四半期比21.0%増）となりました。営業利益は、新規事業への先行投資の実施等によって、165百万円（同35.5%減）となりました。経常利益は、貴金属及び銅の価格変動リスク回避のために行っているデリバティブ取引により、洗い替え等によるデリバティブ評価損100百万円を計上し、52百万円（同78.4%減）となりました。四半期純利益は、29百万円（同40.6%増）となりました。

Q2. 今後の見通しについてどのようなお考えでしょうか。

当社グループの経営成績に影響を及ぼす電子部品・デバイス工業分野の生産は、足元で落ち込んでおります。今後、

同分野においては、依然堅調なスマートフォンやタブレット端末の需要に加え、タイ洪水の影響から脱しつつある自動車関連業界の復調に伴い、徐々に回復していくものと予想しておりますが、全体としては厳しい状況が続くものと予想され、下期においても、当初計画で想定した販売数量を下回ると見込んでおります。

一方、貴金属及び銅の価格は、当初計画の想定を上回って推移してきており、特に銅価格については、当初計画の想定と乖離しているため、今後の想定価格を600千円/tに変更しております。金価格については、ギリシャでの政治混迷を背景に足元で下落しており、先行きの不透明感も高まっていることから、今後の想定価格を、4,000円/gに変更しております。

事業別の事業環境については、貴金属事業では、主要な



代表取締役社長

山田 慶太

お客様が属する電子部品・デバイス工業分野において、価格競争が激化しており、当社にも一層のコストダウンが求められる状況にあります。このことに対応し、顧客満足度向上のため、生産効率の改善に取り組むとともに、新たな市場を開拓すべく、国内のみならず海外も含めた積極的な営業活動を継続しています。環境事業においては、新たな事業基盤となるような製品や事業を構築すべく、積極的に新しい事業展開を行ってまいります。また、同時に、社内諸制度の変革を進め、経営管理体制を強化することによって、企業価値の向上に努めてまいります。

以上により、通期の当社グループの売上高は、14,321百万円（前連結会計年度比9.5%増）、営業利益は、310百万円（同32.1%減）、経常利益は、205百万円（同62.2%減）、当期純利益は、105百万円（同45.3%減）

を見込んでおります。

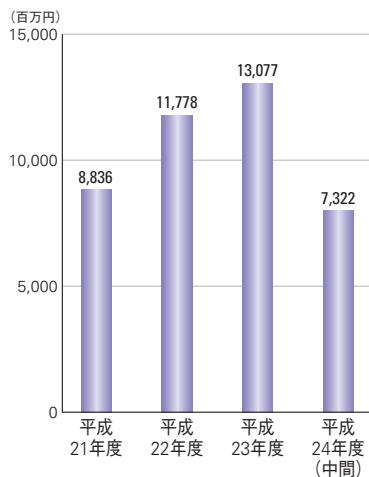
Q3. 株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

電子部品・デバイス工業分野の生産回復に遅れが見られるなど、当社の先行きを巡っては、厳しい経営環境が続くと見込んでおります。しかしながら、中長期的には、環境保全意識の高まりや希少資源の重要性の高まりなど、資源のリサイクルに対する経済的、社会的重要性はますます増していくものと捉えており、当社グループの担うべき役割もますます重要なものになっていくと考えております。

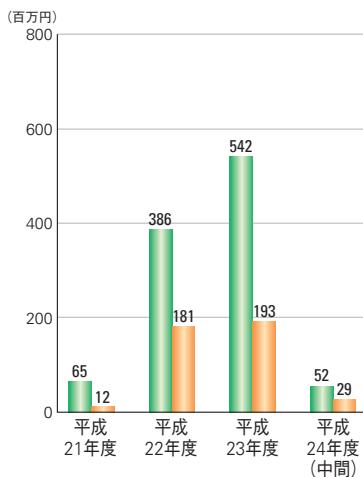
そうした厳しい環境の中ではありますが、従業員一丸となって、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

売上高

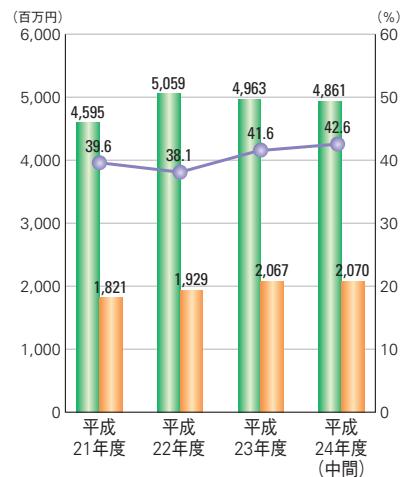


経常利益、 中間(当期)純利益



■ 経常利益 ■ 中間(当期)純利益

総資産、純資産、 自己資本比率



■ 総資産 ■ 純資産 ● 自己資本比率

■ 当第2四半期 連結累計期間の概況

■ 貴金属事業

当事業の主要なお客様が属する電子部品・デバイス工業分野の生産は、前年同期の水準を下回りましたが、既存の取引先との取引量拡大や新規市場開拓の成果によって、貴金属の販売数量が前年同期実績を上回りました。また、主力製品である金の販売価格は、高値で推移しました。主力製品の販売数量と平均販売価格が、共に前年同期実績を上回ったことから、売上高は、6,785百万円（前年同四半期比23.7%増）となりました。セグメント利益は、新規事業への先行投資を実施したことと、貴金属に関するデリバティブ取引による評価損を計上したこと等によって、252百万円（同29.7%減）となりました。

■ 環境事業

当事業の主要なお客様が属する電子回路基板業界の生産は、依然足取りが重く、当社の電子回路基板向けエッチング液や、銅ペレットの販売数量は、前年同期の実績を下回りました。銅ペレットの販売価格も、前年同期の水準を大幅に下回り、減収要因となりました。一方、新規事業においては、売上を伸ばすことができましたが、減収分を補いきれず、売上高は、505百万円（前年同四半期比4.3%減）となりました。セグメント利益は、製品販売価格の低下による売上高の減少に加え、銅に関するデリバティブ取引による評価損を計上したことによって、61百万円（同55.7%減）となりました。

■ その他

その他に含まれるシステム受託開発事業及び運輸事業においては、厳しい事業環境の中での利益確保を目指し、コスト削減等の合理化と顧客満足の上昇に継続的に取り組んでまいりました。この結果、その他の売上高は、107百万円（前年同四半期比8.8%減）となり、セグメント利益は、11百万円（前年同四半期は0百万円のセグメント損失）となりました。

■ 第2四半期連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当第2四半期末 (平成24年3月31日)	前期末 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産	2,873	2,999
固定資産	1,987	1,964
有形固定資産	1,801	1,792
無形固定資産	27	29
投資その他の資産	158	142
資産合計	4,861	4,963
負債の部		
流動負債	1,673	2,047
固定負債	1,117	849
負債合計	2,790	2,896
純資産の部		
株主資本	2,041	2,049
資本金	504	504
資本剰余金	339	339
利益剰余金	1,244	1,252
自己株式	△46	△46
その他の包括利益累計額	28	17
純資産合計	2,070	2,067
負債純資産合計	4,861	4,963

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当第2四半期 (平成23年10月1日～ 平成24年3月31日)	前第2四半期 (平成22年10月1日～ 平成23年3月31日)
売上高	7,322	6,052
売上原価	6,479	5,218
売上総利益	842	833
販売費及び一般管理費	676	576
営業利益	165	257
営業外収益	10	9
営業外費用	123	23
経常利益	52	243
特別損失	0	144
税金等調整前四半期純利益	51	99
法人税、住民税及び事業税	16	51
法人税等調整額	6	26
少数株主損益調整前四半期純利益	29	20
四半期純利益	29	20

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

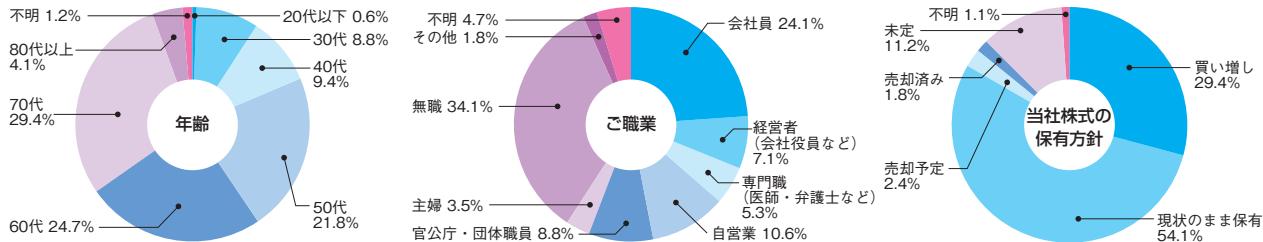
	当第2四半期 (平成23年10月1日～ 平成24年3月31日)	前第2四半期 (平成22年10月1日～ 平成23年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	178	390
投資活動によるキャッシュ・フロー	△132	△74
財務活動によるキャッシュ・フロー	△40	50
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5	366
現金及び現金同等物の期首残高	642	814
現金及び現金同等物の四半期末残高	648	1,181

株主さまアンケート結果のご報告

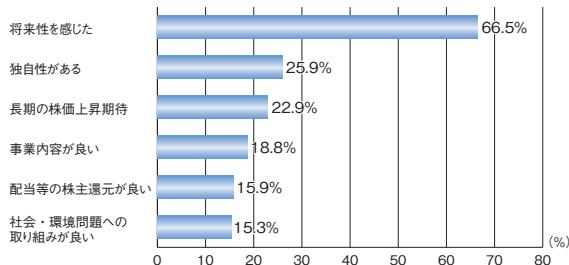
平成23年12月の『株主の皆様へ』での「株主さまアンケート」にご協力いただき誠にありがとうございました。今回、170人（12.4%）の株主様からご回答並びに貴重なご意見をいただきました。

お寄せいただいたご回答結果の一部をお知らせします。皆様の声を少しでも多く経営・IR活動に反映できるよう、今後とも取り組んでまいります。

ご回答者について

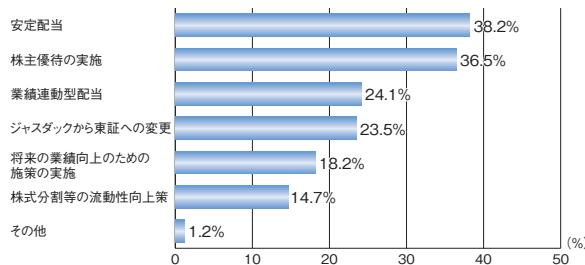


当社株式を取得された理由（上位6位まで、複数回答）



当社株式購入理由において、「将来性を感じた」が圧倒的に多く、次いで「独自性がある」、「長期の株価上昇期待」となりました。今後も、ご期待に沿うべく独自の技術力を背景とする成長戦略の実行に邁進いたします。

株主施策として望ましいもの（上位2つまで回答）



ご要望として多く頂戴したものは「安定配当」、続いて「株主優待の実施」などでした。

当社といたしましては、まずは、引続き安定配当に努めてまいります。

トピックス

平成24年3月 安全で快適な職場づくりの推進のため、労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）をアサカ理研グループで認証取得いたしました。

平成24年4月 産業財産権制度の普及促進や発展に対する貢献が認められ、経済産業省特許庁主催の平成24年度「知財功労賞」において、特許庁長官表彰（特許活用優良企業）を受賞いたしました。



■会社概要

商号	株式会社アサカ理研
本社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセ口47番地
設立年月日	昭和44年8月25日
資本金	504,295,600円
事業内容	
①貴金属事業	金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精錬処理及び販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生及び販売
②環境事業	塩化第二鉄廃液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売、水処理事業、光触媒事業
③その他の事業	自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発及び販売、工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

■役員

代表取締役社長	山田 慶太
取締役	吉田 隆之
取締役兼執行役員	志村 高史
取締役兼執行役員	佐久間幸雄
取締役兼執行役員	鈴木 忍
取締役	野納 敏展
取締役	熊谷 巧
取締役	三崎 秀央
常勤監査役	大谷 勝男
監査役	遠藤 政勝
監査役	森 勝房

(注) 1. 取締役野納敏展氏、熊谷巧氏及び三崎秀央氏は、社外取締役であります。
2. 監査役大谷勝男氏及び遠藤政勝氏は、社外監査役であります。

■株式の状況

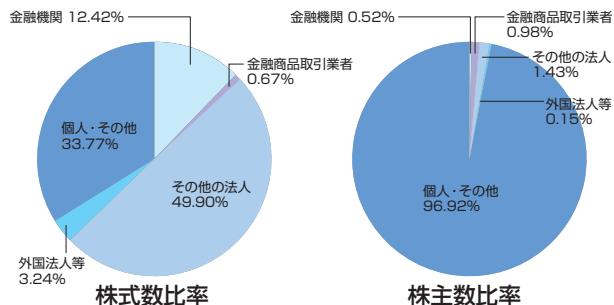
発行可能株式総数	10,200,000株
発行済株式総数	2,572,300株 (自己株式84,697株を含む)
株主数	1,331名

■大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社モラル・コーポレーション	718	28.86
株式会社M&F	340	13.67
野村ホールディングス株式会社	100	4.02
株式会社常陽銀行	90	3.62
株式会社東邦銀行	81	3.26
日本生命保険相互会社	72	2.91
ザバンク オブ ニューヨーク トリー ティー ジャスデツク アカウト	55	2.21
山田 盛久	51	2.05
第一生命保険株式会社	50	2.01
東京中小企業投資育成株式会社	50	2.01

(注) 当社は自己株式(84,697株)を保有しておりますが、議決権がないため上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■所有者別分布状況



(注) 上記比率は、当社保有の自己株式(84,697株)を控除して計算しております。

■ 株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
配当金受領株主確定日	9月30日
	なお、中間配当を実施するときは3月31日
定時株主総会	毎年12月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL：0120-232-711（通話料無料）
特別口座の口座管理機関	東京証券代行株式会社
同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL：0120-49-7009（通話料無料）
上場証券取引所	大阪証券取引所・JASDAQ市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.asaka.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株券電子化によるご注意

- (1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行為口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

大輪の牡丹が咲き競う国指定名勝「須賀川牡丹園」



明和3年（1766年）に、薬種商を営んでいた伊藤祐倫が牡丹の根を薬用にするため栽培したのが始まりとされており、東京ドーム約3倍の広さの園内には、290種、7,000株もの大輪の牡丹が咲き競っています。樹齢200年を超える古木や、須賀川にしかない品種「昭和の夢」、友好都市を結んで中国洛陽市から贈呈された珍しい中国牡丹「豆緑」などがあります。なお、須賀川牡丹園は全国の牡丹園の中で唯一の国指定名勝でもあります。

財団法人 須賀川牡丹園保勝会

〒962-0815 福島県須賀川市牡丹園80番1号

電話：0248-73-2422

<http://www.botan.or.jp/>

福島の旅が丸わかり!!

で検索 <http://www.tif.ne.jp>

うつくしま観光プロモーション推進機構（財団法人福島県観光物産交流協会 内）

福島市三河南町1番20号コラッセふくしま7階 TEL：024-525-4024